

看護学講座 コミュニティ看護学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	長谷川 美香	1999. 4. 1～
教授	四谷 淳子	2016. 4. 1～
准教授	米澤 洋美	2008. 4. 1～
准教授	北出 順子	2008. 4. 1～
講師	川口 めぐみ	2009. 4. 1～
助教	夏梅 るい子	2014. 4. 1～
助教	平井 孝治	2017. 4. 1～
助教	青木 未来	2019. 4. 1～
助教	岡本 智子	2020. 4. 1～

2. 研究概要

研究概要

コミュニティ看護学分野は、地域看護学・環境科学・老年看護学・精神看護学の4領域から構成されている。

地域看護学では、地域で生活する人々および健康課題を持つ人々の心身の健康の維持・向上への支援に貢献できる看護学研究を目指している。前年度からの研究テーマを継続し、次のような研究活動を行っている。

1. バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

本学工学部、愛知医科大学、広島工業大学、A0SED (An Organization for Socio-Economic Development, Bangladesh) との協働により、バングラデシュの安全な水の確保と住民の健康改善に重点置いたフィールドワーク研究と国際協力を推進した。

2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化

親密な関係にある若者間のデートDV予防教育プログラムの開発及び、プログラム評価に用いるデートDVに関する態度を測定する日本語版尺度を開発した。これらの尺度を用い、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証した。また、福井県のDV被害者の相談実態を全国と比較し、福井県のDV相談支援体制を考察した。

3. 職種テーマで支える在宅医療・ケア実現のためのIPE (多職種連携実践教育) の推進

地域医療推進講座、地域医療プライマリケア講座、福井医療大学と共同でIPEセミナーを実施し、地域医療人の育成を推進した。

4. 低出生体重児の母親に関する研究

低出生体重児の母親の育児不安軽減のための育児支援構築を目的に、母親の育児不安の特徴の明確化に取り組んでいる。

5. 若年性認知症に関する研究

若年性認知症者の就労継続のための支援策構築を目的に、若年性認知症者の就労継続困難の実態と問題の明確化に取り組んでいる。

6. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発

シルバー人材センターに所属する団塊世代を中心とした退職後高齢者の社会参加と主体的健康づくりに関して、住民参加型アクションリサーチを用いて参加者の主体性や健康意識に対し経年的な変化を追跡している。

7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明

地域住民と保健師との協働関係に関して、現代のみならず戦前期に遡り記述化に取り組んでいる。具体的には、健康づくりを題材にした戦前・戦中期における保健師機能の明確化、および福井県美浜町と共に健康づくり活動の企画・推進・評価を行っている。

環境科学では、福井市湊地区社会福祉協議会の高木靖弘氏と共同で、平成16年福井豪雨の被災地区と非被災地区における社会福祉協議会会員165名に対して、在宅避難時の要望 (環境面、物資面、被災者負担の偏在改善、弱者意見の反映改善、支援者の配置改善、支援情報、子供・要介護者の一時預かり、医療・福祉の相談支援窓口、女性専用相談窓口) について無記名自記式アンケートを実施し、被災の有無で要望に差異が認められるか検討した。

老年看護学では、高齢者が健やかに生活・療養できる環境の整備のために、工学系分野と連携するなど新しい技術を取り入れながら研究を進めている。

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキンテアを予防するシーツの開発

スキンテア (外傷性創傷) は、高齢者の脆弱化した皮膚に些細な摩擦やずれを起こすことによって発生するといわれている。そこで、シーツやリネンの素材も発生リスクになると考え、これまでの褥瘡研究の成果をもとに、褥瘡だけでなくスキンテアを予防するシーツやリネンの開発を地元福井の企業と取り組んでいる。

2. ウレタンフォームマットレスのへたりと褥瘡発生の関係

褥瘡予防用マットレスであるウレタンフォームの劣化が体圧に影響すると言われており、日本褥瘡学会のガイドラインにおいてもマットレスの劣化の確認が推奨されている。これまでの調査において、臀部のへたりがもっとも大きく、ベッドの頭側上時に体圧が最も高いこと、へたりに応じて体圧値が上昇する傾向であったことを報告してきた。しかし、マットレスのへたりと褥瘡発生の関係について調査したものはなく、へたりがどれくらいになれば、褥瘡発生に影響するのかは不明である。そのため、マットレスを交換するタイミングに苦慮しているのが現状である。そこで、本研究ではウレタンフォームマットレスのへたり状況と褥瘡発生関係を検証する。

3. 超音波画像 (エコー) を用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築

褥瘡の肉芽組織の評価は、創面を占める良性肉芽の割合で点数化されている。肉芽が良性か不良かの判断は主観的なもので、評価者により評価が異なることがある。そこで本研究では、褥瘡の肉芽組織の病理組織所見、肉眼的所見と触診の所見、超音波診断検査の所見を統合し、エコーによる肉芽組織の客観的評価方法を確立し、自動判別システムを構築することを目指す。

4. ドライスキンおよびスキンテアを予防・改善するためのアセスメント・ケア方法の開発

高齢者の大きな健康問題に、ドライスキンとスキンテアがある。ドライスキンによって生じるかゆみや発赤、スキンテアによる創痛や感染の危険の持続・悪化は高齢者のQOLを著しく脅かす。このドライスキン、スキンテアの改善のために、看護師は保湿剤を用いたスキンケアを行っている。しかし、臨床現場では改善しきれていない高齢者のドライスキンがみられるのが現状である。加齢により脆弱になった高齢者の皮膚に最善のケアを施すために、基礎研究ならびに臨床研究に取り組んでいる。

精神看護学では、心の病をもつ方やその家族の健康増進、家族のもつ力の向上に関する研究に取り組んでいる。主要な研究テーマとして、次のような研究活動を行っている。

1. 精神疾患をもつ方の再発予防および精神疾患をもつ方とその家族の困難からの回復力向上のために、統合失調症をもつ方の家族レジリエンスを高めることを目的とした看護支援プログラム開発、および摂食障害の家族に対する支援プログラムの推進をおこなっている。

2. 高齢地域住民を対象に認知機能と生活習慣についての研究、高齢地域住民の家族の困難からの回復力についての研究を進めている。

3. 児童・青年期の子どもが示す発達障害・食行動異常・睡眠の問題に関して、実態調査、予防に向けた背景因子の調査、血中動態の解明をおこなっている。

キーワード

看護、国際協力、低出生体重児、保健師活動の歴史、シルバー人材センター、豪雨災害、体圧分散、保湿ケア、統合失調症

業績年の進捗状況

【地域看護学】

1. バングラデシュ国 パイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト
改良版三角型太陽熱淡水化装置（TrSS）の形状が造水性能に及ぼす影響結果を踏まえ、現地住民のニーズに基づき、TrSSの再設計とTrSSの現地における造水シミュレーションを実施し、改良版TrSSの造水量UPを確認した（土木学会論文誌にて発表）。また、TrSS導入前後の現地住民の塩分摂取量と血圧を継続的に測定した結果、TrSS導入後に有意な血圧低下がみられ、健康状態の改善が確認された（51th APAOPH Conferenceにて発表）。
2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化
Justification of Verbal/Coercive Tactics Scale, Attitudes About Aggression in Dating Situationsの日本語版尺度を開発・活用し、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証し、プログラム受講後の心理的DVに関する認識の有意な上昇傾向が確認された。また、福井県ではDV相談受理件数と一時保護件数間に有意な正の相関関係であったが、全国では有意な負の相関関係であり、福井県のDV被害者は一時保護が必要な状況になってから相談機関につながっている可能性を示唆された（World Nursing and Health Care Congressにて発表）。
3. 職種チームで支える在宅医療・ケア実現のためのIPE（多職種連携実践教育）の推進
嶺南地区での地域医療人育成のため、小浜病院での「在宅と施設と病院をつなぐ多職種連携セミナー」（54人参加）、若狭町での「若狭町生き抜くプロジェクト」2回（計228人参加）を実施した。
4. 低出生体重児の母親に関する研究
低出生体重児の母親の育児不安の影響要因は育児に対する自己効力感であったことを明らかにした。
5. 若年性認知症に関する研究
若年性認知症者の就労・経済的・心理的問題、家族への影響があり、当事者の就労継続意欲があっても就労を諦める傾向があることを明らかにした。
6. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発
地方農村部のシルバー人材センターにおいて団塊世代を中心とした介護予防に関するグループを結成し組織全体の健康を考える取り組みに参画する活動の第2サイクル目の経過を追った。
7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明
保健師規則が制定された前後で保健指導の内容が変化していたことを明らかにした。また、同時期における国保保健師のアプローチ方法は、農村部の住民・住民組織の特性に合わせたものであったことを当時の文献から示唆した。

【環境科学】

平成16年福井豪雨の被災地区と非被災地区における調査では、145名の有効回答を解析した結果、環境整備面において、非被災地区では男女別トイレよりも給水場を第1位とする要望が多かったが、被災地区では給水場と男女別トイレをともに整備する要望が多く、在宅避難時でも男女別トイレのニーズが給水場に劣らず大きいことが判明した。本研究は北陸公衆衛生学会誌第46巻1号（2019年10月）に資料として掲載された。

【老年看護学】

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキンケアを予防するシーツの開発
企業と連携し、新たな生地の開発を進めた。新たな生地は、一般的に使用されている綿（平織り）に比べて、摩擦係数・すれ力も低いことがわかった。生地の物性試験、寝床内環境試験を経て、製品化を進める。
2. ウレタンフォームマットレスのへたりと褥瘡発生の関係
附属病院褥瘡委員会と連携し、マットレスのへたり調査を実施した。さらにマットレスのへたりと褥瘡発生の関係を検証するため、附属病院スタッフと連携し計画立案をした。
3. 超音波画像（エコー）を用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築
4. ドライスキンおよびスキンケアを予防・改善するためのアセスメント・ケア方法の開発
施設を利用している高齢者を対象とし、スキンケアを他者に依存している高齢者の皮膚状態や介護者によるスキンケアの実施状況を明らかにすることを目的とし調査を実施した。皮膚生理機能測定（角層水分量、経表皮水分蒸散量、キメ）、スキンフレイルスクリーニングツールを用いた調査では、上肢より下肢の方が皮膚が乾燥していることが明らかとなった。施設スタッフはスキンケアを行うことの重要性を感じているものの、十分に実施できていないと感じているスタッフは半数程度に留まっていた。

【精神看護学】

1. 統合失調症をもつ方の家族へのインタビュー結果を通して、統合失調症をもつ方の家族レジリエンスを高めるための看護支援プログラムの作成に取り組んだ。また、作成した看護支援プログラム（案）を精神疾患をもつ方の当事者研究支援者に提示し、助言を受けプログラムの修正に取り組んだ。現在は、作成した看護支援プログラムの効果検証を実施するために、統合失調症をもつ方とその家族への介入調査を計画している。研究の一部は、23rd East Asian Forum of Nursing Scholarsにて発表した。
2. 地域高齢性住民を対象として実施した認知症早期発見のための集団検診の結果を分析し、結果の一部を日本老年精神医学会にて発表した。
3. 得られたデータの解析から食行動異常のある子どもが睡眠の問題を生じていくことがわかった。ジャーナル投稿に進んでいる。

特色等

【地域看護学】

主として保健師教育課程科目を担当している。学部教育では、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、産業保健論、学校保健論、国際保健論、在宅看護論、公衆衛生看護学実習（県・市町村実習）、在宅看護学実習、地域ケア実習、および基礎専門科目である健康科学論等を担当している。また、卒業研究では、在宅看護、公衆衛生看護に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、地域看護学特論、地域看護学演習、地域看護学特別研究等の専門科目、及び共通科目である看護倫理、看護研究、災害看護専門看護師教育課程科目である災害看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学特論Ⅴの一部を担当し、老年看護専門看護師教育課程科目である老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳの一部と老年看護学特論Ⅴを担当している。

研究においては科学研究費補助金、JICA事業予算を獲得し、バングラデシュ、福井県および県内の市町村と協力し研究を推進している。国際支援機関、地方自治体等と協働した研究を行うことにより、より具体的に当該国・自治体の健康づくりの施策化、および人材育成に貢献している。また、福井県の課題である在宅医療推進に向け、県内の医療機関と連携し活動を展開している。これらの成果は国内外の学会で発表し、研究成果を教育に還元している。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス感染症流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要が高くなっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無と比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

学部教育では、老年看護学概論、老年看護学特論、ライフサイクル論、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、老年看護学実習を担当している。卒業研究では、老年看護学に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、老年看護学特論、老年看護学演習、老年看護学特別研究等の専門科目、および共通科目である看護研究を担当している。また、2019年4月から老年看護専門看護師教育課程を開講し、複雑で多様な健康問題をもつ高齢者とその家族が尊厳のある質の高い生活を送れるよう、多角的なアセスメント能力、QOL向上に向けた卓越した高度な看護実践能力をもつ人材の育成に貢献している。本課程において老年看護学特論Ⅰ-Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ-Ⅲを担当している。

研究においては、高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向け取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われていた課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

学部教育では、メンタルヘルス看護実践方法論、精神看護学概論、精神看護学特論、ライフサイクル論、精神看護学実習を担当している。また、卒業研究では、精神疾患をもつ方の再発予防および地域生活定着のための支援、精神疾患をもつ方の家族に関するテーマでの論文作成を指導している。

研究においては、精神疾患をもつ人の再発予防や地域生活継続に向けた支援、精神疾患をもつ人の家族支援をテーマに研究に取り組んでいる。特に、精神疾患をもつ人とその家族の困難からの回復力に着目し、その力を高めるための看護支援プログラムの構築に努めている。

本学の理念との関係

本学の中期計画である【2】地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献するという点を考慮し、研究、教育、地域貢献を行っている。

【地域看護学】

研究では、「大学生のデータDV予防教育プログラムの開発に関する研究」（基盤研究（C））、「退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発」（基盤研究（C））、「住民と国保健康婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究」（基盤研究（C））、「バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト」（JICA草の根協力事業）、低出生体重児の母親に関する研究等を行っている。

これらの教育・研究は、国外、県内地方自治体等と協働し、地域特性を鑑みためである。特に学部教育では、実際に地域に出向き、住民と接することで地域の健康課題を見出す演習を設けるなど、地域により密着した教育を行っている。本学の中期目標にある『地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する』をまさに実践中である。

地域貢献としては、福井県、県内の市町村の各種委員会委員および委員長、専門職業人、地域住民を対象とした研修会講師、DV被害を受けた女性の自助グループの活動支援等に携わっている。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要性が高くなっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無で比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向けた老年看護学の研究に取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われていた課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

精神疾患をもつ方の再発予防および地域生活定着のための支援について医療・福祉・保健の専門職との連携や看護職の役割に関する研究・教育を行っている。

3. 研究実績

区分	総数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2015～2020年分	2021年分	2015～2020年分	2021年分
和文原著論文	9	5	—	—
英文論文	ファーストオーサー	1	1.688(1.688)	0(0)
	コレスポンディングオーサー	0	0(0)	0(0)
	その他	7	19.01(19.01)	0.21(0.21)
	合計	8	20.698(20.698)	0.21(0.21)

(A) 著書・論文等**(1) 英文：著書等****a. 著書****b. 著書（分担執筆）****c. 編集・編集・監修****(2) 英文：論文等****a. 原著論文（審査有）****21112022**

Kunimitsu M, Nakagami G, Kitamura A, Minematsu T, Mugita Y, Ogai K, Sugama J, Aoki M, Takada C, Sanada H: Dissemination of microbiota between wounds and the beds of patients with pressure injuries: A cross-sectional study, Wound Practice and Research, 29(2), 70-76, 202106, DOI: 10.32325/wpr.29.2.70-76, #0.21

b. 原著論文（審査無）**c. 原著論文（総説）****d. その他研究等実績（報告書を含む）****e. 国際会議論文****(3) 和文：著書等****a. 著書****b. 著書（分担執筆）****21112023**

編集 酒井明子, 長田恵子, 三澤壽美 分担 川口めぐみ: 配慮を必要とする人への看護 精神疾患患者への支援と看護: 看護の統合と実践 ③災害看護第5版, メディカ出版, 215-216, 202201, 978-4-8404-7545-7

c. 編集・編集・監修**(4) 和文：論文等****a. 原著論文（審査有）****21112024**

青木未来, 四谷淳子, 上野栄一: 排尿ケアチーム看護師が活動するうえで抱く困難感, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(3), 639-645, 202111, DOI: 10.32201/jpnwocm.25.3_639

21112025

新山真奈美, 夏梅のい子: 若年性認知症サポート企業における若年性認知症者の就労継続の実態, バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌, 23(2), 11-16, 202108, DOI: 10.24466/jbfsa.23.2_11

21112026

加納恭子, 四谷淳子, 青木未来: NPPVマスクによるMDRPU予防を実践する看護師が抱く困難感, 日本褥瘡学会誌, 23(2), 107-114, 202106

21112027

川口めぐみ, 北岡和代, 川村みどり, 中本明世, 森岡広美, 片山美穂: 統合失調症をもつ人の高齢期にある親の行動 親亡き後の子の将来のための準備のプロセス, 精神障害とリハビリテーション, 25(1), 78-86, 20210630

21112028

大森純子, 川崎千恵, 中野久美子, 田口敦子, 北出順子: 原子力災害に備える保健活動に関するエスノグラフィー 原子力発電所立地地域の市町村保健師の内情の開示, 日本地域看護学会誌, 24(1), 4-12, 202104, DOI: 10.20746/jachn.24.1_4

b. 原著論文（審査無）**c. 総説****d. その他研究等実績（報告書を含む）****21112029**

中切正人, 四谷淳子, 大久保真: 看護にかかわる総合型・学校推薦型選抜を見据えたパフォーマンス評価—パフォーマンス課題「2040年の未来の看護」, 大学入試研究ジャーナル, 32, 271-277, 202203

21112030

北出順子: 地域課題の見つけ方, 協同の発見, 341, 69-70, 202104

- e. 国際会議論文**
- (B) 学会発表等**
- (1) 国際学会**
- a. 招待・特別講演等**
- b. シンポジスト・パネリスト等**
- c. 一般講演 (口演)**
- 21112031** Mika Hasegawa: Countermeasures at the University of Fukui Hospital, 12th International Nursing Conference at the Faculty of Nursing at the University of Airlangga, Surabaya, 20210407
- 21112032** Ogai K, Aoki M, Urai T, Nagase S, Okamoto S, Sugama J: Two-year stability of dysbiotic condition at sacral skin of bedridden older patients, The 9th Asia Pasific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, 202107
- d. 一般講演 (ポスター)**
- 21112033** Hiromi Morioka, Miho Katayama, Akiyo Nakamoto, Midori Kawamura, Megumi Kawaguchi: Recognition of and hope for QOL, QOD and ACP based on narratives of an elderly woman, ICN Congress 2021 Nursing Around the World, web, 20211102
- 21112034** Aoki M, Kano K, Yotsuya J: Skin conditions and implementation status of moisturizing care facilities, The 9th Asia Pasific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, 202107
- 21112035** Midori Kawamura, Megumi Kawaguchi, Miho Katayama, Hiromi Morioka, Akiyo Nakamoto: Narratives on health, illness, and medication in community-dwelling individuals with schizophrenia, ICN Congress 2021 Nursing Around the World, web, 20211102
- 21112036** Yotsuya J, Aoki M: Nurses' coordination skills and related factors in urinary care teams, The 9th Asia Pasific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, 202107
- e. 一般講演**
- f. その他**
- (2) 国内学会 (全国レベル)**
- a. 招待・特別講演等**
- b. シンポジスト・パネリスト等**
- 21112037** 四谷淳子: 体圧分散マットレスの選定術「圧再分配」「動きやすさ」2つの視点の重要性, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 202107
- 21112038** 四谷淳子: 体圧分散寝具の最前線, 第23回日本褥瘡学会学術集会, 20210910
- c. 一般講演 (口演)**
- 21112039** 片山美穂, 相上律子, 川口めぐみ, 森岡広美, 川村みどり, 中本明世, 北岡和代: ポンディング障害の疑いのある母親A氏が子どもに愛着を感じるプロセス, 第41回日本看護科学学会学術集会, web, 20211205, 第41回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 57, 202112
- 21112040** 飯沼 佑太, 信川 創, 水上 喜美子, 川口 めぐみ, 田中 悠二, 東間 正人, 高橋 哲也: 脳波の複雑性に着目した高齢者の認知機能推定, 2021年 電子情報通信学会 NOLTAソサイエティ大会, 20210612
- 21112041** 新山真奈美, 夏梅るい子: 若年性認知症者の就労支援に関わる専門職の実態調査, 第22回日本認知症ケア学会, web, 20210605, 日本認知症ケア学会誌, 20(1), 156, 2021
- 21112042** 夏梅るい子, 新山真奈美: 企業に対する若年性認知症者への就労支援の実態調査, 第22回日本認知症ケア学会, web, 20210605, 日本認知症ケア学会誌, 20(1), 156, 2021
- d. 一般講演 (ポスター)**
- 21112043** 川口めぐみ, 北岡和代, 森岡広美, 片山美穂, 中本明世, 川村みどり: 精神疾患をもつ当事者を研究アドバイザーとして起用した看護支援プログラムの開発過程, 第41回日本看護科学学会学術集会, web, 20211204, 第41回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 137, 202112
- 21112044** 四谷淳子, 青木未来, 岡本智子, 嶋雅代, 内江希, 高村理絵子, 飯田悠紀子, 波崎由美子: 静止型体圧分散マットレスの寝返り動作評価方法の検討, 第23回日本褥瘡学会学術集会, 20210910
- 21112045** 青木未来, 加納恭子, 四谷淳子: 保湿剤塗布によるドライスキン改善度と介護者の負担感, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 202107
- 21112046** 四谷淳子, 橋本美香: スマートチェンジ機能搭載型エアマットレス導入が夜間の睡眠に有用であった1例, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 202107
- 21112047** 新山真奈美, 夏梅るい子: 若年性認知症者の就労継続支援の実態調査, 第63回日本老年社会学会, web, 20210612
- 21112048** 上野栄一, 西村高宏, 北出順子, 藤本ひとみ: 看護学生のコミュニケーション能力と共感性との関係, 日本看護技術学会第19回学術集会, 20211009
- e. 一般講演**
- 21112049** 岡本智子, 青木未来, 四谷淳子: COVID-19流行下における認知症高齢者と関わるケア提供者のケア困難感の実態-介護施設職員へのインタビュー調査-, 日本老年看護学会第26回学術集会, 202106
- 21112050** 四谷淳子, 酒井明子, 青木未来, 岡本智子: COVID-19流行下における高齢者のカラオケの生きがいと感染対策の実態, 日本老年看護学会第26回学術集会, 202106

業績一覧

f. その他
21112051

岩本里織、大木幸子、滝澤寛子、鈴木美和、松原三智子、入野了士、伊木智子、草野恵美子、長谷川美香、山田小織：公衆衛生看護技術について考えよう！、第10回日本公衆衛生看護学会学術集会、20220108

(3) 国内学会（地方レベル）

- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）
- d. 一般講演（ポスター）
- e. 一般講演
- f. その他

(4) その他の研究会・集会

- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）
- d. 一般講演（ポスター）
- e. 一般講演

f. その他
21112052

四谷淳子：『スマートテキストとAI/IoTが織りなすニューノーマル』、ニューノーマル社会に貢献するタッチレスな看護、第2回産総研一福井大学ジョイントセミナー、202103

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	エコーを用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築	四谷 淳子	田邊 将之	20190401-20230331	¥390,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	大学生のデートDV予防と援助要請行動促進を一体化した教育プログラムの開発	長谷川 美香	米澤 洋美, 川口 めぐみ, 北出 順子	20200401-20240331	¥910,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	住民と国保保健婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究	北出 順子	長谷川 美香, 米澤 洋美	20180401-20220331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	光老化に着目した高齢者ドライスキンの改善のための皮膚タイプ分類の確立	青木 未来		20210401-20250331	¥3,380,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就職の場における介護予防プログラム構築	米澤 洋美	長谷川 美香, 北出 順子, 石垣 和子, 秋原 志穂	20200401-20240331	¥1,040,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	地域在住高齢者におけるサルコペニア肥満の超音波検査を用いた新たな診断指標の解明	岡本 智子	四谷 淳子, 北出 順子, 荻田 美穂子	20210401-20240331	¥2,210,000
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	糖尿病患者に特有のサルコペニア発症・進展および転倒の規定要因：5年追跡調査	岡本 智子		20200401-20220331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発	米澤 洋美	長谷川 美香, 北出 順子	20160401-20220331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	統合失調症をもつ人の家族レジリエンスを高めるための看護支援プログラムの効果検証	川口 めぐみ	平井 孝治, 長谷川 美香, 北岡 和代	20200401-20240331	¥1,040,000
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	高齢者のドライスキン改善のための簡易的皮膚アセスメント法の開発	青木 未来		20190830-20220331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	摂食障害の子どもをもつ親に対する簡易版心理教育の効果検証	平井 孝治		20190401-20230331	¥390,000

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
共同研究	福井経編興業株式会社	生体情報収集機能を有するベッド用スマートシーツシステムの開発	四谷 淳子, 堀 照夫, 長宗 高樹	20200914-20220331	¥550,000

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
----	-----	-----	------	------	------

業績一覧

受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	機械学習と音声アシスト機能を用いたインタラクティブ型超音波エコーシステムの開発および排便ケアへの活用検討	四谷 淳子	20210415-20220331	¥4,637,100
------	------------------	--	-------	-------------------	------------

(B) 奨学寄附金

受入件数	5
受入金額	¥1,600,000

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の所属

学会の名称	役職	氏名
日本公衆衛生看護学会	一般会員	長谷川 美香
北陸公衆衛生学会	一般会員	長谷川 美香
日本家族看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本看護医療学会	一般会員	長谷川 美香
INTERNATIONAL COLLABORATION FOR COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH	一般会員	長谷川 美香
日本在宅ケア学会	一般会員	長谷川 美香
北陸公衆衛生学会	評議員	長谷川 美香
日本看護研究学会	一般会員	長谷川 美香
日本看護科学学会	一般会員	長谷川 美香
American Public Health Association	一般会員	長谷川 美香
日本結核・非結核性抗酸菌症学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生看護学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生看護研究会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生学会	一般会員	米澤 洋美
日本看護科学学会	一般会員	米澤 洋美
日本医学看護学教育学会	一般会員	米澤 洋美
日本地域看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
日本ケアマネジメント学会	一般会員	北出 順子
日本健康心理学会	一般会員	北出 順子
日本高血圧学会	一般会員	北出 順子
医学史研究会	一般会員	北出 順子
日本保健医療社会学会	一般会員	北出 順子
日本循環器病予防学会	一般会員	北出 順子
北陸公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
日本地域看護学会	一般会員	北出 順子
日本精神保健看護学会	一般会員	川口 めぐみ
日本家族看護学会	一般会員	川口 めぐみ
心理教育・家族教室ネットワーク	一般会員	川口 めぐみ
日本精神障害者リハビリテーション学会	一般会員	川口 めぐみ
日本看護研究学会	一般会員	川口 めぐみ
日本精神科看護技術協会	一般会員	川口 めぐみ
日本認知症ケア学会	一般会員	夏梅 るい子
日本公衆衛生看護学会	一般会員	夏梅 るい子
北陸公衆衛生学会	一般会員	夏梅 るい子
日本地域看護学会	一般会員	夏梅 るい子
日本脳科学学会	一般会員	平井 孝治
心理教育・家族教室ネットワーク	一般会員	平井 孝治
日本看護科学学会	一般会員	平井 孝治
看護理工学会	一般会員	青木 未来
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	一般会員	青木 未来
日本認知症ケア学会	一般会員	青木 未来
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	一般会員	青木 未来
国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会	一般会員	青木 未来
看護実践学会	一般会員	青木 未来
日本看護技術学会	一般会員	青木 未来
日本老年看護学会	一般会員	青木 未来
日本看護科学学会	一般会員	青木 未来
日本創傷治療学会	一般会員	青木 未来
日本香粧品学会	一般会員	青木 未来
日本褥瘡学会	一般会員	青木 未来
日本老年看護学会	一般会員	岡本 智子
日本糖尿病学会	一般会員	岡本 智子
日本サルコペニア・フレイル学会	一般会員	岡本 智子
看護理工学会	一般会員	岡本 智子
日本循環器病予防学会	一般会員	岡本 智子
日本疫学会	一般会員	岡本 智子

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
--------------	-----	----

業績一覧

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長（主査）・委員の別	氏名	査読編数
日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	査読	委員	四谷 淳子	1
日本褥瘡学会誌	査読	委員	四谷 淳子	1
看護理工学会誌	査読	委員	四谷 淳子	6
日本看護科学学会誌	査読	委員	四谷 淳子	1
日本公衆衛生看護学会誌	査読	委員	長谷川 美香	1

(E) その他